



2500
40-11



2500
40-11

東
牛
本
貸
本
厨
京
池
田
墨
清
音

西游記二篇叙

復古

池清

夫西游記之篇叙
歸之如河色已潤之其唐神之虛
無念之受教施之其母之其女
其母之其女之其母之其女之其母
也其母之其女之其母之其女之其母
明家之其母之其女之其母之其女
其母之其女之其母之其女之其母
其母之其女之其母之其女之其母

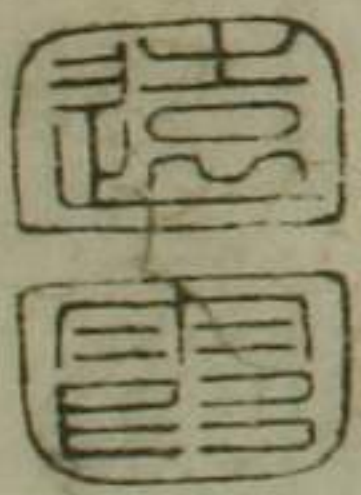
西遊記二篇叙

：石鏡不見後，然引之生，其域
亦有西遊記，如篇，讀之，以手也
也，久矣，其情生，無幾，乞諸友人
山子，其信之，飲酌之，皆，醉，飲，酒，是
為，其，全，福，之，好，校，梓，分，回，諸，也，為
嗚呼，凌，凌，之，孝，人，性，之，變，機，巧
欺，詐，之，毒，之，心，之，狡，之，智，之，窮
強，之，此，哉，也，之，觀，此，為，者，報，筆

衝，空，無，處，之，生，柳，樵，乎，界，之，三
石，載，之，也，故，之，有，得，之，一，由，好，收
福，之，於，此，為，者，是，之，得，之，得，者，
志，也，焉

之，好，了，矣，新，月，自，碎，後，題，干
隨，年，馳，遠，第，二，街，之，中，之，店

志，之，也，如，保，人



公主百花羞



天杌接以刺棘結
子知若辛彌旋
噴他後百花羞
寫春

梅翠題

圖



金角大王

銀角大王

金角大王
 銀角大王
 素素
 素素

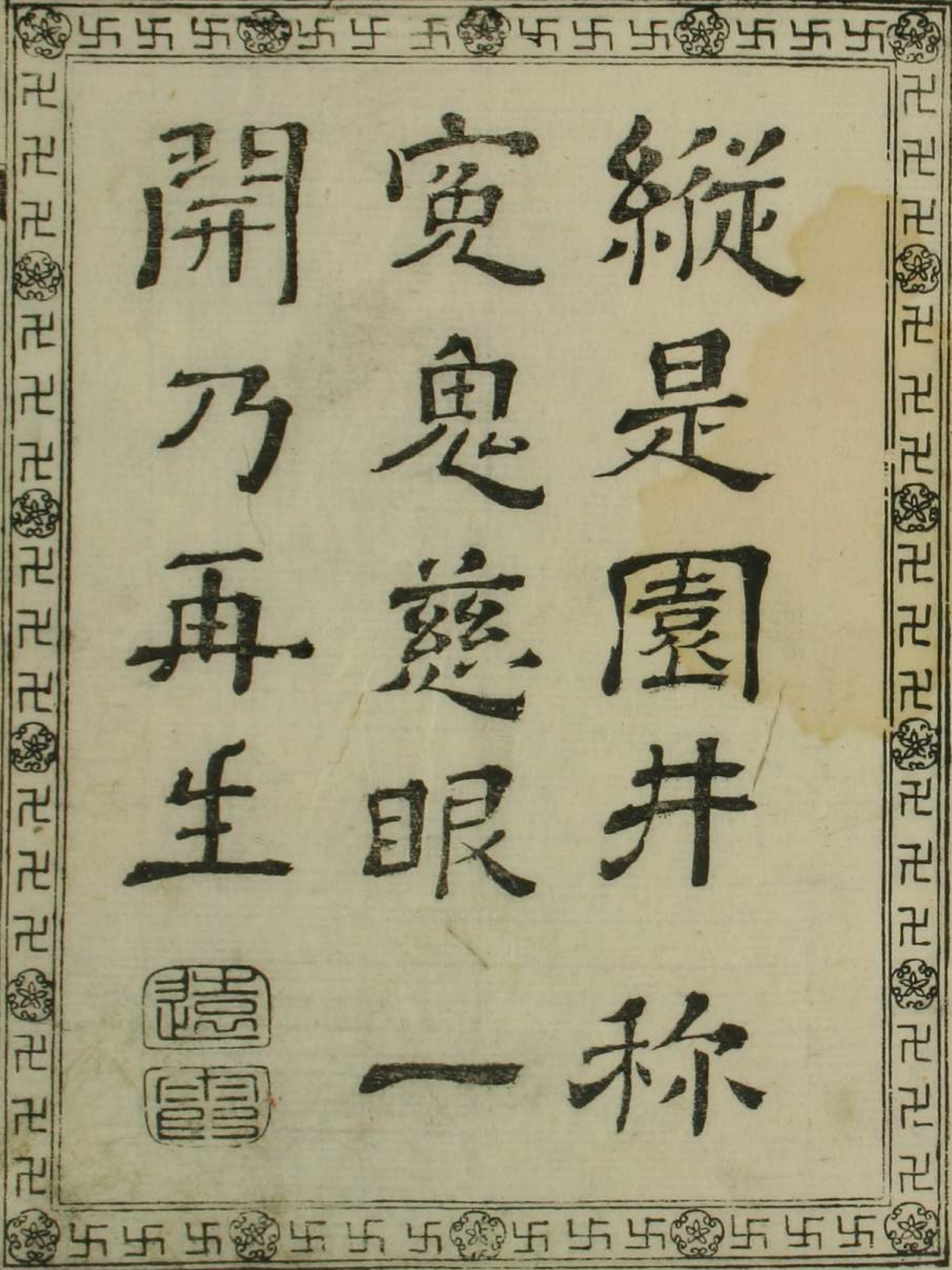
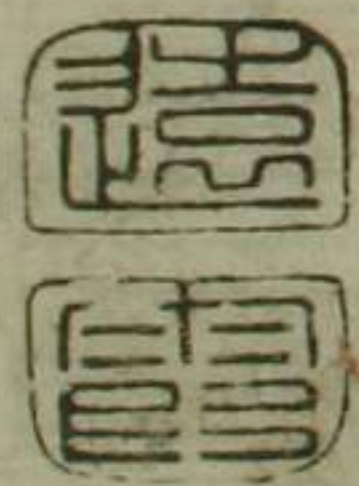
西遊記

卷之

烏雞國王亡靈



縱是園井称
寬鬼慈眼一
開乃再生



火雲洞裡魔伯
 弄杖變幻通神
 津梁幸者至筏
 不至三昧燬又



聖嬰大王

一名紅孩兒

靈感大王



通て海に魚
 況躍者一舟に
 大に望まば
 其處

其處海に望
 其處





独角兕大王

大以花子馮謹力
 認以少游如是觀
 去吾雪山一信水
 江湖漲起波原
 遠處有人

西遊記

獨角大王術稱神
 天將羅漢皆遠
 巡赫威唯
 有先君在
 一喝莫由秘
 厥真

繡像西游記全傳第二編總目次

卷之壹

第三十回

邪魔侵正法

意馬憶心猿

第廿一回

豬八戒義釋猴王

孫行者智降妖怪

卷之二

第廿二回

平頂山功曹傳信

蓮花洞木母逢災

第廿三回

外道迷真性

元神助本心

第廿四回

魔頭巧算困心猿

大聖騰那騙寶貝

第廿五回

外道施威欺正性

心猿獲寶伏邪魔

卷之三

第卅六回

心猿正處諸緣伏 劈破傍門見月明

第卅七回

鬼王夜謁唐三藏 悟空神化引嬰兒

第卅八回

嬰兒問母知邪正 金木參後見假真

卷之四

第卅九回

一粒金丹天上得 三年故主世間生

第四十回

嬰兒戲化禪心亂 猿馬刀圭木母空

第四十一回

心猿遭火敗 木母被魔擒

卷之五

第四十二回

大聖慇懃拜南海 觀音慈善縛紅孩

第四十三回

黑河妖孽擒僧去 西洋龍子捉鼉回

第四十四回

法身元運逢車力 心性妖邪度脊關

卷之六

第四十五回

三清觀大聖留名 車遲國猴王顯法

第四十六回

外道弄強欺正法 心猿頭聖滅諸邪

卷之七

第四十七回

聖僧夜阻通天水 金木壅慈救小童

第四十八回

魔弄寒風飄大雪 僧思拜佛履層冰

卷之八

第四十九回

三藏有災沈水宅 觀音救難現魚籃

第五十回

情乱性從因愛慾 神昏心動遇魔頭

卷之九

第五十二回

心猿空用千般計

水火無功難煉魔

第五十三回

悟空大鬧金峴洞

如來暗示主人公

卷之十

第五十四回

禪主吞食懷鬼孕

黃婆運水解邪胎

繪本西游記全傳二編目次畢

第五十四回より第百回小至三藏師徒猶種々の横難魔障小逢百辛千
苦一遂小佛を拜一經成りて東土小帰不逆を引續輯録一西游
記全部の功を終んとす。諸四方の諸君發兌の日成待一高覽を給と云爾

書肆某誌

池漬

繪本西游記二編卷之一

池漬

前編之下回

前小説一々唐の玄奘法師ハ唐帝の倫命を仰ぐ西域に到り
佛を拜一經を求んと悟空悟能悟淨の三徒弟を従一種々の
魔障を免ま碗子山波月洞小到一又々妖怪の爲小細縛られ洞
の中小在く既小危りりり小不意妖怪が妻百花羞が好意ゆ
万死を免ま八戒悟淨と俱小宝象国小入り國王小緝一々百花羞
の文牒をとり々々國王大不該死三藏の徒弟悟淨八戒小公至
救ひ飯一々を頼々々二人領掌一々等く身を長大小変一雲
小集一々須臾小碗子山波月洞小至一雲端を下り一窺ふ小洞
門巖一々困く物音せがハ八戒先釘耙を揚く洞門小向ハカ小任

白蓮記三編卷之二

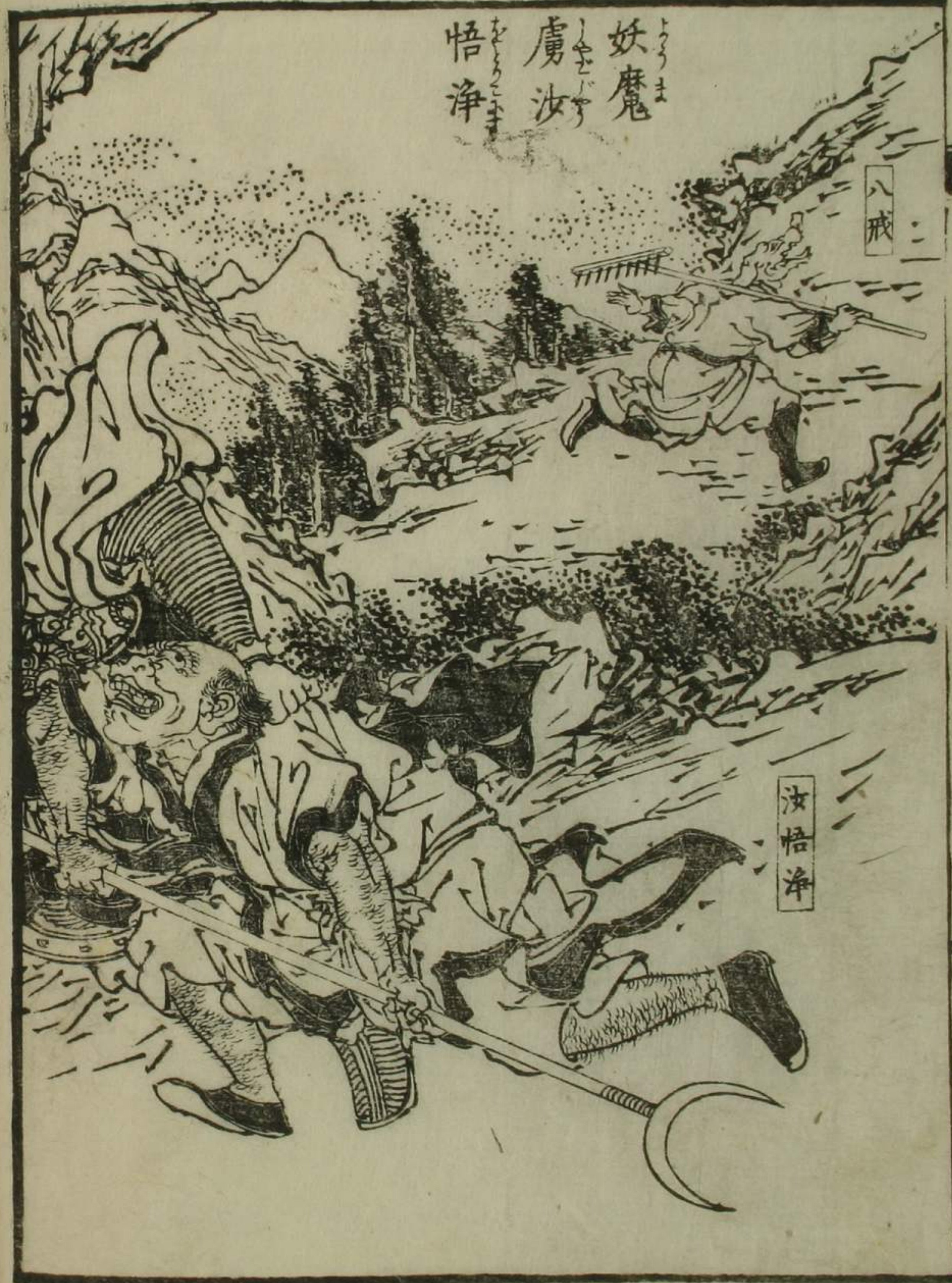
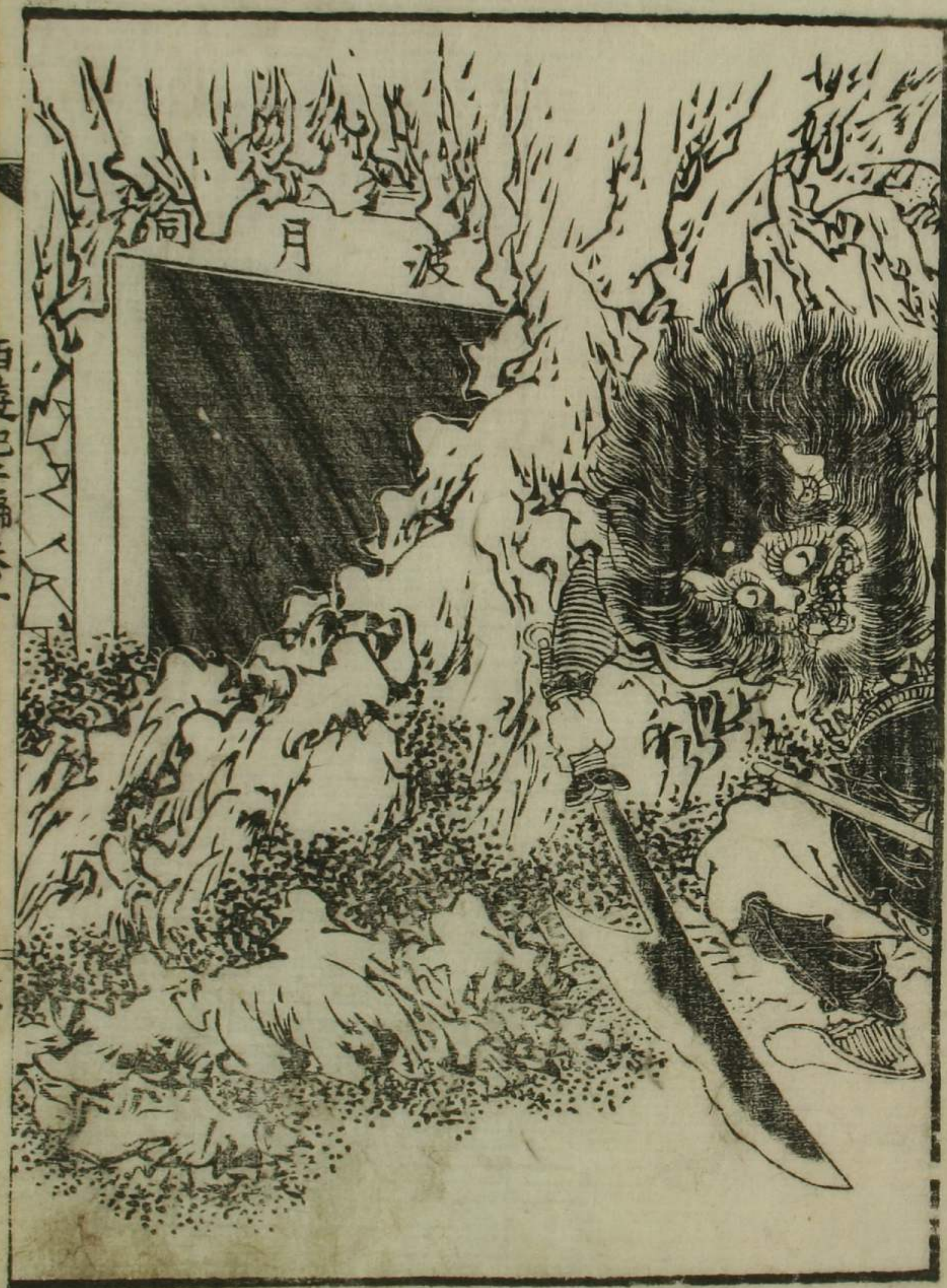
せし丁々として斬りしに、那石門遂に破き砕けり。此物音小孫は、
 小女急ふ跑へ、妖姪小報し、多うあそと、妖姪勃然と、一口の鋼刀を拵
 り、走り出さるを、屬し、曰、汝亦我好意を以て、師弟三人を免し、
 小。今又き、うろく門を破き、如何ある元礼と、叱り、多う。八戒嘲笑
 ひ。汝寶象国の公王を奪捕し、妻し、をす。我徒国王の頼小因
 り、汝を斬殺し、公王を奪返さ、為さる、呼り、これバ、妖怪
 由、敢て躍上り、悪業を起し、一言の答もせず、鋼刀を弄し、斬
 り、うろ。八戒悟浄心、ゆり、釘釘宝杖を、双方より、
 撃し、戦ふ、三四十合、され、妖姪が、勇力、女、の、た、も、守、右、小
 赤左小赤秘術を、多し、闘ふ、二人、遂に、敵、を、能
 はず。茲、小、ぬ、り、八戒悟浄を、賺し、吾、頻、小、出、恭、を、戦、ひ

意小任せず。汝一人且く他と闘へ、傾き、きり、刀を添くと、言、
 小、其、場、を、逃、去、藤、藤、の、茂、も、隠、も、前、後、も、あ、ず、寐、り、り、
 悟浄、は、う、ろ、も、あ、ず。只、一、人、妖、姪、と、戦、ひ、終、小、戦、ひ、負、て、妖
 怪、が、為、小、擒、ま、れ、ど、妖、怪、傾、き、是、を、搔、抓、し、洞、の、中、小、回、り、
 細、み、れ、り、り、

邪广侵正法

意馬憶心猿

斯く、妖姪、心中、小、赤、ひ、多、彼、唐、僧、我、情、を、ゆ、つ、放、ち、回、せ、思、
 を、思、ず、却、り、徒、弟、を、我、を、捉、し、妻、を、奪、ふ、し、と、言、
 絶、せ、悪、僧、を、是、ハ、必、と、我、妻、他、を、と、又、母、小、書、を、贈、り、此、里、を
 逃、し、と、只、悪、む、を、賤、婦、が、不、負、心、を、拵、り、
 くれ、と、急、ち、兇、性、を、發、し、洞、の、奥、へ、跑、入、妻、を、梳、り、居、り、後、



已述言三卷一

髪を扱ぐ曳倒し眼を怒り牙を咬罵々々。御狗心の時婦我妻
年乃鐘愛をも顧むと又母乃々々々慕ひ唐僧の書信を央々益々小
純く我を欺た渠ホを助回せし何れぞと責問ゆと百花羞頗る
驚と虫尚さあつぬ面色ゆと曰々ハ郎君何ゆ如此分離的あるを
曰ぞや妻何ぞ君を疎し又母の書信と云は是ハ必むと別小子細あは
先心を慎くよう思惟しと推宥む妖怪尚も怒憤ア。汝尚強嘴
りや勿き我體を紅見あり然ありとも尚争や百花羞曰紅見
とハ何なる物小や妖怪白即ち那唐僧の徒弟八戒悟浄前ふき
つく石門を破り我を捉しす。我忽ち汝悟浄を擒し今那
処小細かり。汝を他が面前小曳行一声を問て虚実分明なりんと
頓く書を授け汝悟浄を繫みたる所へ近り。百花羞心中の想

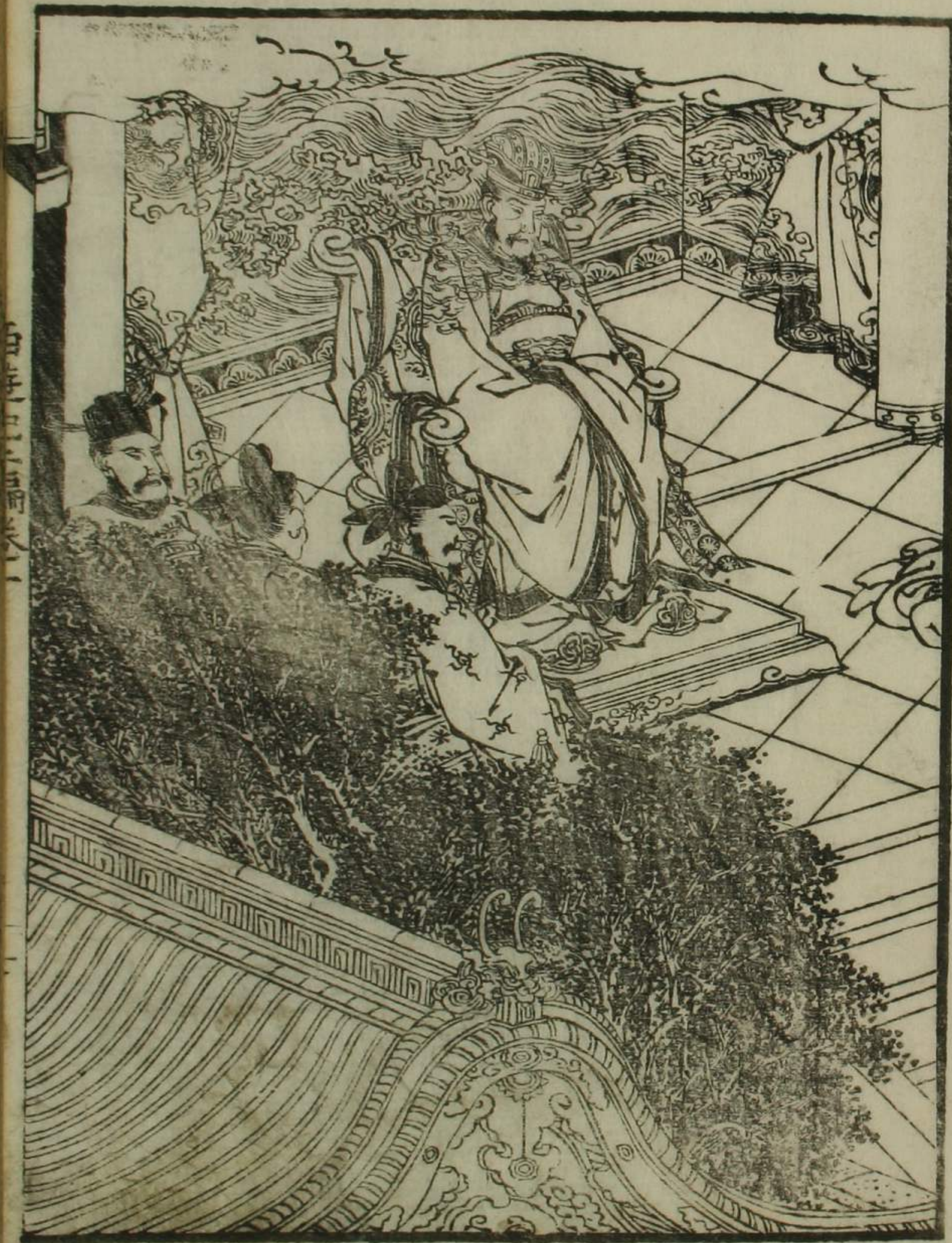
々々ハ那唐僧道德人小勝しれハと西天へ行乃擇やも當りしれ。れ
妻が活命の恩を感じ。今擒とありぬとも妻が一命小入りて死す
明白小ハも不言。一々もたつとも生死を天小任せしと胸を定々
授行まき。何小妖精汝僧が前行く妻を押し倒し鋼刀を抜く其
胸ゆき付大喝し曰汝汝悟浄八戒と俱小再度きと不礼を
示しハ此賤婦又乃許し書を送す。汝ハ二人を央々我を捉
ちちんと針さかす。もあつて明白小ハ汝一命を助飯しと
らま同。汝悟浄細られか。妖怪小兇悪の心を起し公主を殺さんとす
る然々々心弱く恨やと声を属す。汝狂忽小手を下とて死止よ
汝の妻の書をとりつり。我徒再度きと汝を捉んとす
不故ハ汝嚮小我師又を捉し師又洞中小有る公主乃模様と

人知宝象国小到王國王小見ふ及今側をらんばこの婦人の形
 を画た掛く有れ依く師又其意趣を尋ふふは始終を結ぶ
 路上り此女う女子哉んをさしやと問ゆ師又則ち此処ゆく人
 してを告られふは王我徒を央め汝を捉へ公主を宮中へ迎へ
 とせりのみ汝我を殺とをを速小殺せ罪を死公主を殺しと勿
 きとりゆゆぞ姫姪漸小狐疑を暗し刀を納く公主を抱起し我
 過く汝を疑ひ多く警しとてり必と恐むとてり勿まこととて手成携
 して席上へ入り酒宴を設け陪礼し杯羊斟ふりて書書を安撫
 して曰汝の家小在り二人の小児を手に又那汝悟浄を逃とてり勿れ
 我宝象国小行くと汝が又小見ゆらんか心ち身を動すとてり之け
 ろ俊秀なる即君と對しとてり百花羞其伎をひ之即君行くと

又王小見はるる酒宴を設け饗食しむらん即酒を飲とてり酔
 本相を顯しむるをれと練りて姫姪懐けりて頃と云
 小亦棄て宝象国小到と著朝門の外小停とてり黄門官小對し
 云や其小國王弟三つ附馬なり聖上小見はるる未も頭
 ち斯と奏しとてり黄門官怪しとてり内小へ奏しとてり國
 沈思し朕二人の附馬あり今弟三の附馬とハ維かんと問小左右
 奏とてり察しとてり陛下弟三の公主ハ先年妖怪小とてりわひ
 其在所知とてり頃日唐僧小統し書を寄多ふとてり初とてり
 山小居りてををる今三附馬とてり公主をとりて妖怪小や
 命死小玉色を失ひ他既小妖怪たふ宜く何せん早く追回せ
 と恐はるる三藏制しとてり他雲小騰とてり霧小駕とてり今追飯し

ともきくしと思つて必ごと東下へ下。不如宜く見へる口舌を免れ
 玉つと。茲に於て必王練小順ひ宣入つと命しられ頼く奴姓金
 陛下下ふ入ま王舞踏く山呼の礼をかりぬ。君臣是を云ふ其
 人品美悪俊秀なれば是は奴姓ふあふ天晴棟梁の才世を海ふ
 吾なりと感歎く止む。必王怖畏の心を悦び小久回く曰。汝は是
 何の公金の駒馬とや。奴姓曰。臣は是城東碗子山の麓破月庄の民也
 幼方れ何より弓馬成嗜を捕をかりて為生く。は。十三年以前山間
 小在く獲物を待ひひく一頭の班虎一人の女子を於山坡を走り来
 り。其の一人一箭を引く射りぬ。其前班虎ふあり女子を捨。箭をぬ
 たり。山中へ逃去ぬ。臣即ち女子を勞りて家へ飯と湯薬を以て
 終は生れ。何國の人と問ふ。公王を言ふを不言。只民家あり。女

かりて各ふより遂に配合し。妻とけり。十余年の月日を送り。是
 頃日紡く公王をうらむを。今日きく。罪を謝し。又彼公王を取
 一。班虎山中へ隠れ。痕を養ひ。成積く能変化し。專く人を惑ひ。害
 し。臣或人の語をうらむ。大唐より西天へ赴れ。経をうらむ。僧那虎。小
 日。虎唐僧の文牒をむ。己き唐僧と變し。人を惑ひ。害せん。と
 今大王の殿上をへぬ。綉墩の上座し。是は十三年
 公王を取。班虎なり。大王何を察し。公王を巧く。奏し。け
 ます。王もまじく。訝。汝何を以て。是を知や。と問。妖怪曰。臣常小猛
 處を狩。獵。を業と守。因。那が化。復。も。法。を。悉。く。知。疾
 ひ。あ。他。が。本。相。を。顯。し。見。せ。し。ん。と。一。盞。の。水。を取。寄。唐。僧。向
 ひ。く。黒。眼。定。身。の。法。を。授。け。一。口。の。水。を。啗。ぐ。唐。僧。吹。け。し。る。唐



山崎闇斎



妖魔 ようま
 変駢 ひんぺん
 馬災 ばさい
 三藏 さんざう

妖怪

山崎闇斎

僧果々々妖怪が為小兎のき二隻の班虎とどかりふ多君臣大不驚
 死後殿へ逃走王急小武臣小命々々數百の兵をりく破撞一
 むろと虫獲法の緒神唐僧の身を守まき佑小より君の兵を傷
 ろろの能守官軍強だ嚷々左右つ天晚小より漸小虎成活提
 鉄繩を以て是を細め鉄籠小入置たり茲小於國王附馬が功賞
 一光録寺小於大不筵婁を排死饗食應斯く衆臣朝を退れく後
 妖怪銀安殿小進へ十八人の官娥をえくび歌舞吹彈を奏せ飽
 々々酒肉成喫樂々々々二更の頃小より大不沉醉堪ひく身を
 跳せ己が本柵を現し側小琵琶成彈居る官娥を捕一日小咬碎
 きれ残の官娥此跡をみく肝を消魂を失ひ皆散く小逃かろあ
 ちくまきりくまらるる小主美とるも能ハと丹墀のうけ小蹲踞戦

競々々々居り多同小唐僧の白馬金亭驛小般茶れく在りく
 唐僧妖姪小兎れく虎とかりるをさく大不孩死歎息大師兄孫
 悟空あふ此難小遭るすたを師又八戒が絶を信く孫行者を追ひ
 くる口舌小遭る薄情さよ今八戒悟浄る音信わたりより我此妖
 姪を殺し唐僧を助んと忽ち韁繩を絶断回より西海小竜の妻
 身かれ本柵を現し竜となり黒雲小響く空中より城内を臨みん
 ろ小銀安殿小那妖姪上面小坐く自野咬死る官娥の手足血流て
 淋々々々を扣過殺とく恣小受用とる跡をれた小竜心小針を穿れ
 出し身成揺く一人の官娥と妻下气的小歩くより妖姪が前小礼
 をかく云々ハ附馬相公賤妻が一命を助けく一言を穿えとる相公
 此大殿小独坐く自野小坐くも真ふく人賤妻敵をく相公

の語をたゞしとて、妖怪甚だ悦び小亀小取をせせく又尋く飲屠と
 々々ひながり曰。汝定く唱をうらめ我ら小曲をうらめ望む。小亀声小集
 じく空韻の小曲をうらめ。妖怪甚だ感賞し汝斯く堪能なり。舞をこと
 知つて我為小奏せよ。小亀微笑し賤妻や舞をうらめされど素手小
 舞を奏いふ真うらめや侍人願く相公の腰間を室刀を借らん
 とて。妖怪好くと云く室刀を解くと云く小亀室刀を拔放し心
 中、小妖怪が縫間を付ひながり。上三下四左五右六花刀法を奏えたり
 刀光空小閃めたり白雪の起小異なり。妖怪其妙手感歎し眼
 を咤く刀くれ居たり。小亀他余念りぬ棄し起上る妖怪が頭
 を望く一刀を斬下と云。妖怪早く身を側く餘過し一振の満堂
 紅を取く架住たり。此河小亀も本相を現し銀安殿を跳り下り

下り互小雲小籠上り空中小有く戦し三三合。れども小亀終り
 敵しほど。妖怪が面を望く室刀を投付る。妖怪片キと見と掻
 抓し片手の中を満堂紅を振上り小亀を丁と打。小亀是を躲くと
 して腿の上を強く蹴きし。小亀急小雲中より迷下り御水河に鎖り
 今て身を潜りたり。妖怪迂きたり尋ねれども其形を刀されば又銀
 安殿小回り登り屠を喰ひ酒を飲大つ小乱際し前後もあらず
 赤所より。板那小亀半河をうらめ在り水を出竊し金亭鐸小の依
 曰白馬と變りし。厩中を伏居たり。河小八戒が女悟浄を欺り華取小
 へく眠たり。三吏の河今小予と眼を覚し大つ周厚雲小赤無て
 臥亭小回り師父を尋ねども刀えず。只白馬の在り八戒つらくと見
 牙し此馬只茲小般をたねのり。のり。全身汗小浸りまらる。腿の

白馬
化宮
娥奏
花刀
舞



五
夜
話
卷
一

上小痕有こそ不審かれ察せしむ人きりて師父を去り馬成も
 歩壞ひりかめしと云々ふと白馬早く八戒をりて我知忽ち人猪を
 けり。師兄何ぞ飯の遅れやと呼りて。八戒白馬の人猪をせり
 仰天し地も跌付て遷り起り逃しとてを。白馬他が皂衣を
 咬住り曳戻し。師兄我を怖るるかりれ。早く師父を救ひ謀り廻
 らせしむ。有しむもを繞らせしむ。八戒頭をかき我徒ら武藝を
 小及む守り師父を救ひ能は。不知是より撒飲せしむ。又巡行
 しし子。白馬衣を咬りて。師兄何ぞ。臆病なる。那妖怪を殺し
 師を救ひし。大師兄孫行者なり。早く花果山に至り大師兄を請
 きし。但し今師父の難小遭ひしを請ひし。只師又一朝の怒小他と
 逐放せしを悔み常々念ふ。今暮るるに欺れ共しき。地

師父の難を足るる。妖怪を除け師父を救へしと。練房し。これ八
 戒終小猪し身を跳りしと。雲小上り花果山をきて。孫行者
 猪八戒義釋猴王
 孫行者智降妖怪
 斯く八戒東洋大海を過り花果山小至り。孫悟空石上り上小
 坐し数千の猴子を左右小陳り酒宴をけり居り。八戒懼る。其
 辺小蹲踞し。孫悟空早し見答め。汝は猪八戒なり。や。汝師父
 を護りて西天より行む。却りて。茲小き。何れ。八戒曰師兄
 疑ひむ。我茲小き。別り。師父汝を恨み。致逐世
 後頼小汝を思ひ。前を悔み。今我小命。汝を請ひ。心
 かり願ひ。師兄師父。一旦乃。過を念ひ。きり。師父小事を
 我々も大幸なり。と言を巧み。言を。悟空大不怒り。八戒を



八戒
到花果山

属悟空

百廿二回



悟空

百廿二回

叱ちり汝き虚き忘わを以もて我わを欺あくも何なにぞ信しんじむた。速すみ小こ其その美みをやせと責せ。
 同どう八は戒かい大だいのせ驚おどた。師し兄けいうあず疑ぎひも多おほ我わ敢あく偽をい言いわらず。
 空くう益えき怒どり。汝き何なにとく我わをあ欺あくや。我わ此こ左さのみ耳み小こ上かみ三さん十じゅう二に天てんのに人にん猪ち追お。
 もあぞえ。又また此こ右みぎのみ耳み小こ下した金きん輪りん水すい際さい八は大だい地ち獄ごく小こ至いたり十代だい圖ず王わう到たう官くわん。
 亦またとま美み帖ていとま近ちかもきこ聞きるかり。今いま師し又また難なん小こ逢あい逢。救きう小こ術じゆつかく。我わとま賺ず。
 一いっ師し又またをきう救きうせしもあるからも。汝き明めい白はく告こぐんハい忽とちちま我わ鉄てつ棍こんとい。
 一いっ二十にじゅう棍こんちぢとい怕おそれバ戒かい大だいのし周しゅう障じやう師し兄けいといふ短慮りよ成なり。
 一いっよふ。我わ美みをこ告こぐと。波なみ月げつ洞どうのに妖よう怪かいがある一編へんとい。悟おぼ空くう嘲あは。
 一いっこひ。さも有あるさもある一。汝き方かた貨か前まへ小こ吾われ別わか小こ臨りんとい。若し路じ上じやう妖よう有あ。
 一いっ師し又またをと捉とめ困りバ大だい徒と弟てい孫そん悟おぼ空くうといふ者ありと告こぐと。西さい方ほう乃なり。
 怪かい邪じや敢あく犯といて有といと教ぐと。何なにといてハ言いはさるや。八は戒かい是こゝを夢。

心こゝろ小こおのひさ多おほハい他たをききと。一いっむろ小こ激げきせしむろ小こあく危あく守と思惟し。
 一いっくや々々ハい。師し兄けい強かうとい同どうのに勿なれ小弟てい教かうといふ言せし。小こ妖よう怪かい大だい小こ笑わら。
 一いっ他た何なに者ものなれむ汝亦また斯ごとく大結けつといふ若邪じや瘦せう猿えん我わ面めん前まへ小こきこハい。
 一いっ他たが皮を剥他たが筋を抽油あぶらを以て煮吃くわくといふ依り他極ごく師し兄けい。
 一いっ小こ勝かちる神通とうあるやと疑ぎといふ如何なにももといふ能はす。只ただきこといふ師兄けいとい。
 一いっ緒いとのも。悟おぼ空くう八は戒かい小こ房ぼうまれく暴燥そう乱らん跳たう他た何なに者ものなれハい吾われ我わ悔くわいり斯无む礼れいとい。
 一いっいや。一いっ汝きといひく行ゆく他我わ捉とめ五鉢ぱつを万段だん小こ步ふ碎さい死し惡あく言ごんの仇をい。
 一いっ酬いらい罪ざいとい呼よび即同どう小こ錦きんの直襟えりを穿ち虎の皮の裙を束鉄てつ棍こんをといふ。
 一いっ衆しゆ猿えん小こ辞じ別わかれ八戒かいとい俱とも小こ雲うん小こ兼かく東洋やう大だい海かいを過り迷小こ碗わん。
 一いっ子こ山さんの金塔たつの前小このも八は戒かい指さしといふ此処こゝ即すなはち黄袍ぼう怪かいが哀なり他也なり。
 一いっ今いま宝ほう象さう國こく小こあり其の小悟おぼ淨じやうといふ他の家小こ捉とめれく在乙い悟おぼ空くう上じやう。

て等我口へききしんん云端を下口洞門小至里々多ふ二人の小兒頑
 要より。一人を十才針一人を八才をり。悟空直小二兒頭を梳き走
 ちよふぞ小兒ハ恐まき。哭嚷洞門小在。小妖急小走入。百花羞
 斯と報ふ。公王驚れ周障洞門小走り出。色残上。悟空を呼。汝何
 者かれ。我兒を捉行。其兒の又ハ甚。強勇の者かれ。女小ふも着
 錯あ。汝小患憂をんをど。返せよ。呼り。悟空。我
 ハ是唐僧乃大徒弟孫悟空と。者なり。我法弟汝悟浄汝が洞の中
 小捉在。他を放し。我又二人の孩兒を汝小還さ。公王是之
 より一命也危。長老言終。妾が性命を救ひ。依り。長
 長老を放し。饒さ。と。今洞外小和尚の師兄

悟空きより。汝を逃。長老早く去。二人の兒と
 返。悟浄一度孫悟空の三字を穿。大悦。公王小謝。
 洞門を走り出。悟空と八戒をん。礼をな。昨日の事体を細説。悟
 空白。汝二人此孩兒を抱。宝象國小。到。突殺。玉階の前。投落。
 且。黄袍怪が兒。他怪。子。此里。回。吾
 茲小待受。他を手捉。二人。領諾。遂小二兒を。雲を起
 去。公王泣。曰。汝唐僧の徒弟。其。信義。先
 汝和尚を放。二人の兒を回。今却。其。如
 何。悟空笑。曰。公王我を怒。汝妖怪。を。汝が父母
 成。何。公王是。浄。妾。父母を。只
 此妖精。妾を。此里小在。妾。妖怪小配。自

害せしとみりども。父母を今一度んごとく死せしも悲しく。残喘を延ばし
 へ飯る日を待てる。多年なり。と云終る。泣伏。泪泉のどく。悟空が曰。公主必
 すと傷く。悲心まされ。委く。猪八戒小僧とあり。我汝が為小那妖猪成とく
 朝小回く。双親小見へし。と。公主が曰。汝如何なる手段を以て。他を促さ死を
 悟空が曰。汝何処の身。深く廻避く。我消息を待。吾別小手段あり。公
 主是小頃ひ廻避く。悟空ハ忽ち公主の摸様小変じ。泪の中。小躲居
 く。專く。那妖猪を待居り。却説八戒と悟浄二人の孩兒を。と。宝
 象國小より。二兒を等く刺殺し。玉階の下。小投落し。ぬ。満朝の文
 武是然々々。仰天。天上より。二兒の尸を降せり。と。驚死強く。八戒悟浄
 雲中より。此体を。是ハ公主。捉去。黄袍怪が孩兒なり。我徳二人
 捉き。うり。殺捨。うりと。高色小呼り。り。此何妖怪ハ。銀安殿小あつて

赤く。宿酒醒。と。赤所。在。多。黄袍怪が孩兒を殺捨。うり。と。めて。大
 小致。た。起。雲中。成。れ。悟浄。八戒。吟。喝。居。り。他。既。小。我。泪。中
 小。綁。り。み。れ。と。小。如何。と。遁。出。し。又。我。兒。何。ゆ。促。ら。れ。と。や。い。と。寛。束
 かり。と。我家。小。飯。ア。と。子。細。を。と。再。ひ。き。り。と。説。話。を。と。の。遅
 う。り。と。雲。小。棄。く。山。小。飯。る。此。何。國王。ハ。夜。来。り。と。を。委。し。と。始。り。二
 附。馬。ハ。妖。怪。な。る。と。を。知。り。多。乃。官。人。小。命。一。宰。中。乃。虎。と。二人。の。僧。を
 ぞ。守。り。せ。り。と。因。小。黄。袍。怪。ハ。回。り。り。と。泪。中。へ。入。き。り。と。れ。バ。悟。空。公。主。の。姿
 小。変。じ。待。居。り。と。他。を。み。と。胸。を。ち。と。大。小。哭。と。妖。猪。是。を。悟。空。と
 八。と。守。り。寄。り。と。摟。起。し。我。渾。家。何。ゆ。泣。と。問。悟。空。泪。を。注。と。な。が。り
 て。曰。即。君。何。と。早。く。回。来。む。と。今。早。八。戒。と。中。り。僧。き。り。と。汝。和。尚
 を。却。り。去。又。二人。乃。孩。兒。と。捨。行。其。存。亡。を。と。手。然。小。郎。君。是。亦。乃。り

我も顧寸妻を割捨りしもの怨もさやまらぬ。又まらぬと泣かれ。妖怪
 拳を振り乱跳罷了々々。我児は既も他も小突殺されし。等吾他もよ
 捉り我子の仇を報ゆる。汝先泣き泣かれ。悟空も白。妻久く哭り心疼
 起る。能乎。妖怪も白。患る。かかれ。我も一件の寶具あり。是を以て換れ
 たも忽ち痛を忘る。なり。只此寶具指を以て弾く。身を忘り。弾く。回。我
 本相を現すと。なり。と示すと。悟空是をさす。潜も悦ぶ所。妖怪も悟空も
 手成携へ。洞の奥深処入り。即ち口中より一顆の内丹舍利大さ雞子
 いく。なるを吐出すと。其色玲瓏。内丹。悟空是を結把偽り。心頭と摸
 る。一遍。忽ち一弾。かかれ。妖怪慌り。捨んと。と。我も悟空早く宝
 貝を把り。一口小吞下り。妖怪大なる孩に怒り。拳をよき。おん。悟
 空其手を隔住ら。妖怪が臉を強く。抹り。勿心。本相を顕し。かれ。妖怪

愕然と。かかれ。汝も何者か。れ。我を欺。死。宝具を騙し。捨り。と。悟空も曰
 我は是唐僧の。大徒弟。孫悟空なり。故有る。師父も。敬。逐。せ。れ。故。も。小。飯
 しが。汝。我。師。父。を。困。り。且。背。け。ゆ。我。を。悪。口。す。依。り。我。も。小。さ。つ。つ。て。先
 二人の孩児を捉へ。八戒も小殺さ。り。り。汝も。首。成。伸。り。我。一。棒。を。受。よ。妖
 怪大り。怒り。我。汝。を。悪。口。せ。り。ま。ず。其。も。れ。二。人。の。孩。児。が。仇。も。汝。逃
 とも。遁。さ。り。り。洞。中。の。羣。妖。を。點。殺。し。三。四。層。の。門。成。搦。余。す。り。り。と
 闖。り。悟。空。も。り。り。大。喝。一。声。も。三。頭。六。臂。の。形。と。變。り。三。根。金。芭。拖。棒。を
 弄。り。八。方。小。當。り。數。多。の。小。怪。成。悉。く。亦。殺。し。遂。も。黄。袍。怪。小。り。り。合
 門。外。小。跳。出。半。雲。半。勢。の。間。も。有。り。戦。り。五。六。十。合。然。も。小。女。怪。悟。空。つ
 一。棒。を。承。り。忽。ち。然。り。り。形。を。消。り。悟。空。身。を。跳。り。雲。端。小。龍。上。り
 四方を。か。れ。り。も。所。在。成。あ。り。す。悟。空。心。も。點。頭。吾。既。も。悟。ほ。り。り。此。妖。怪。必

らず天上よりきこるるなり。我等天上より行きて查看せむ。とて、
 小跳兼く南天門の上へ往りて、通明殿の下へ至る。四大天神問く曰、大聖今
 何の爲茲ふきこるるや。悟空曰、吾唐僧を保護す。宝象国へ至りて、小
 一個の妖人有て、国女を犯し、又我師父を困ましむ。依て我他と闘ひ、他
 忽然とて其形を消さる。我亦是天上よりきこるる怪精なり。此妖
 神は何者か。早く查看せしむ。其原を糺せ。天師是を安んず。靈霄
 殿へ進み、玉帝上帝へ、悟空より、趣を啓奏し、玉帝勅、下して
 普天の神靈を査勘らむ。小都て天上の諸神、欠る者あり。只廿八宿の
 内、二十七位より有る奎星を見し。天師此首を回奏し、奎星狼下鬼、
 玉帝宣く、多女の同日をう往る。天師指を屈く、籌へ四卯至る
 と。三日より、卯一次を點す。今既十三日を過しぬと。玉帝宣く、天

上の十三日、下鬼の十三年、小あり。急だ二十七宿、小令く、他成徒へ
 きこるる。と勅、彼ある。是小依りて、天師命令をつくれ。二十七位乃
 星負首を領りて、奎星を尋らむ。那奎星、悟空小撃き、山間小
 躲る。水気あり、妖雲隠され、更小見出さず。能く此、同本部乃星
 負、念咒をうたひ、聴けり。遂小頭を出し、多ふより、遂小躲る。能
 子、衆星小曳出され、玉帝の前へ、引居られぬ。奎星頭を叩き、罪
 を謝せられた。玉帝宣く、汝何故小私小下鬼へ、走りて、別の子細小、
 曰、萬歳臣が罪を赦し、少く臣下鬼へ、走りて、別の子細小、
 國の公主、本是披香殿侍香の玉女なり。臣他と私通せんと欲し、
 中恐く、天宮の勝景を汚さむ。罪軽とて、他を下鬼へ、
 女小托生臣又走り、妖女となり。碗子山小居を占、他を捨たり。

したるより十三年。今日大聖孫悟空がよめ小孫の情願のれい明白小
 述べたむ。玉帝昔然下々奎星を免奉宮小賤し。太上老君が丹薬を
 煉る所の炉辺不在く火を焚役となり功あり。職小復し。功ありハ罪
 を加へしと命令あるふと。奎星頓首し殿を退た多。悟空六玉帝の
 此殺敵をんし心中歡喜し殿小昇し恩を謝し衆神小辞し別れ。再
 ひ觴斗雲小歩駕波月洞小回りく公主を尋出し。妖怪を収し條を結
 せさせ多處ハ戒悟浄二人もさきさきし。大い悦ひ終ふ公主を
 伴ひ縮地の法を以て須臾の城中へ飯里金奎殿小進く。公主を国
 王小し。くれハ父王母后夢うとたり嬉しく親子相抱た久別の情と
 の浄注をささたりなり。文武の百官斯くさく列位入朝し公主乃飯
 宮を賀し萬歳を唱々。国王悟空小那黄絶怪ハ是何の妖怪小

る中と伺ふと悟空前より成鏡より一遍と。国王大い悦ひ厚く謝し。即ち
 朝房の内なる鉄杵竜乃辺へ悟空成伴ひ。虎と成と。三藏小丹下む。其因
 衆官那假虎を曳出し鉄索を解し三藏法師ハ捉妖怪術小厭れし言
 う能はず。悟空呵々と。師ハ真小好和尚なり。前小ハ八戒ガ讒言成信
 しく我然しく兇悪かり。逐退め。今日怎麼是ホ乃。成弄出
 らや。悟浄空々跪た。師兄は。不者僧面者佛面と。古人の金
 言小あらむ。師兄既小是小り。万望師又を救ひ。悟空ささつ
 くと曰吾豈心小忍心小救さ。ん汝早く水をとりき。れ。悟浄急小一不血
 う清水をとりき。悟浄空々。行者是然合掌。那虎の頭を望
 一口を噴け。妖怪術を退け。六忽ち三藏本の身小より。性を定め。眼
 を開た。悟空を見。且強た。且悦ひ。汝那裡。と。茲小き。り。や。悟浄

有^り一^つ條^ぢ成^つ説^つ一^つ遍^んを^れ也^ん。三^蔵謝^す一^つ曰^く賢^弟功^勞限^り也^ん。吾^等西^天至^る
 聖^果を^遂く^東土^小飯^を唐^王小^養く^汝が^功勞^を弟^一と^せん^とく^く
 歡^喜を^とる^限か^り。因^に小^国王^素筵^を整^へ三^蔵師^弟を^饗食^應數^に
 多^の宝^物を^積み^貯け^り也^ん。師^徒分^毫亦^も受^むむ^詩一^別き^とく^宝
 象^國を^立出^る也^ん。国^王多^くの^官負^を率^く遠^く送^り意^をく^く別^り
 平^頂山^功曹^傳信^を
 蓮^花洞^木母^逢災^を

唐^の三^蔵又^に孫^行者^をほ^く意^を悦^び師^徒四^人宝^象國^を離^れて^西
 小^向ひ^後々^任聖^曉小^行又^に三^春の^景候^に值^ひ或^は日^行く^一座^の高^山小^く
 不^其路^險峻^{あり}行^ぐ四^人皆^く憊^れ前^面を^見れば^緑草^昔々^{たる}
 坡^乃上^小一^人の^推夫^{あり}三^蔵小^向ひ^つひ^々長^老且^に任^聖之^吾一^言を^告ぐ^此山^中小^一野^の妖^女あり^專く^東来^西去^乃人^を吃^く油^煎一^お

ふ^ふ三^蔵是^成丈^く大^{なる}孩^た三^人小^向ひ^如何^{せん}と^議を^孫行^者曰^く
 師^父怕^るふ^吾行^く委^く同^きり^いん^とと^坡乃^上小^行く^禮を^今
 大^哥教^られ^る處^は是^何の^妖女^{なる}願^く八^委く^結聖^聖之^推夫^答を^曰
 此^山行^同り^六百^里号^す平^頂山^と山^中小^一個^の洞^{あり}蓮^花洞^と号^す
 也^洞乃^裡小^兩個^の頭^{あり}他^亦唐^僧の^形を^圖画^し尋^求く^吃ス^子
 長^老心^を用^ひ一^個の^唐の^字成^ゆ言^出り^多く^刻忽^然と^其う^に
 ち^成人^失行^者頗^る怪^し頭^を拾^り空^を見^{れば}那^推夫^とん^ん也^日
 值^ひ功^曹也^雲乃^上小^居る^悟空^大の^版を^立雲^を起^し追^到洞^自
 く^つひ^多八^汝這^分貨^結統^{あり}直^小来^聖懇^懇小^和れ^亦変^化を^賣
 弄^し吾^等様^ん八^无礼^{なり}と^叱り^多れ^那功^曹慌^り礼^を介^し大^聖吾^等兼^を
 を^饒一^也那^妖怪^果と^神通^廣大^{なり}変^化窮^り乃^恐く^八脚^が



功曹化獲
夫貌
妖怪所
在

神機を考^{まが}働^{とら}守^{まも}り小^こあ^あととを師^し又^{また}を保^{たも}つ行^ゆかめ孫^{そん}行者^{ぎやう}曰^い不^ふ支^し緊^{きん}
 吾^わ唐^{たう}僧^{そう}を護^{まも}る山^{さん}を過^すんと功^{こう}曹^{そう}小^{せう}別^{べつ}心^{しん}小^{せう}お^おひ^ひ々々^{々々}八^{はつ}那^な妖^{よう}怪^{かい}を^を何^{なに}程^{ほど}
 の神^{しん}通^{つう}あり^{あり}也^や弒^{しつ}小^{せう}先^{せん}八^{はつ}戒^{かい}を^を争^{せう}り^り鬪^{とう}を^をり^り他^た歩^ほ肩^{けん}を^をも^も吾^わ行^ゆ向^{むか}へ^へ本^{ほん}を^を
 月^{げつ}子^し軍^{ぐん}し^しと^とと^と餌^じり^りき^きり^りぬ^ぬ三^{さん}藏^{ざう}其^{その}子^こ細^{さい}を^を向^{むか}へ^へ孫^{そん}行^{ぎやう}者^{しや}が^が曰^い師^し又^{また}心^{しん}成^{じやう}安^{あん}
 一^いく^く行^ゆり^り此^{こゝ}山^{さん}只^{ただ}二^に個^{こゝろ}の^の小^こ怪^{かい}あ^ある^るの^の北^{きた}辺^への^の者^{もの}も^も膽^{たん}を^をな^なす^す故^{ゆゑ}練^{れん}を^をる^る小^こ
 怪^{かい}を^を恐^{おそ}ま^ます^す先^{まづ}の^のと^と告^つげ^げか^かり^り志^しを^を安^{あん}ん^んと^とす^す先^{まづ}八^{はつ}戒^{かい}を^を
 かり^りと^と窺^{うかが}ひ^ひき^きり^りと^とち^ちり^り三^{さん}藏^{ざう}然^{しか}り^りと^と八^{はつ}戒^{かい}小^{せう}去^こり^り命^{いのち}ト^とな^なる^る八^{はつ}戒^{かい}底^{そこ}気^き
 味^{あじ}も^もち^ちお^おひ^ひか^かる^る師^し命^{いのち}點^{てん}止^しと^と領^{りやう}掌^{しやう}の^の釘^{くわう}鉈^たを^をと^とり^り出^でさ^さり^り悟^ご空^{くう}三^{さん}
 藏^{ざう}小^{せう}向^{むか}へ^へ八^{はつ}戒^{かい}三^{さん}言^{ごん}の^の辞^じ退^{たい}せ^せと^と行^ゆり^り其^{その}意^いは^はす^す他^たが^が海^{うみ}小^{せう}付^つく^く委^いと^と窺^{うかが}ひ
 き^きり^りの^の身^みを^を揺^ゆる^ると^とも^もと^と思^{おも}は^はる^る二^に個^{こゝろ}の^の鱉^{あつ}鱉^{あつ}と^と変^{かは}り^り八^{はつ}戒^{かい}
 を^を追^おひ^ひ行^ゆ他^たを^を綜^{そう}の^の下^{した}小^{せう}任^{にん}と^とぞ^ぞ行^ゆひ^ひ々々^{々々}八^{はつ}戒^{かい}斯^すと^と八^{はつ}夢^むの中^{なか}お^おち^ちす^す公^{こう}言^{ごん}

道をま^まり^りと^と迷^まひ^ひ八^{はつ}里^りを^を往^ゆり^り身^み体^{たい}疲^{つか}れ^れ大^{だい}の^の孫^{そん}行^{ぎやう}者^{しや}成^{じやう}恨^{こん}
 頭^{あたま}を^を縛^{ばく}ら^ら罵^{のの}り^りと^とハ^ハ汝^{なんぢ}此^{こゝ}弼^{ひつ}馬^ば温^ん何^{なに}を^を成^{じやう}捉^と弄^{りやう}し^し々々^{々々}嶮^{けん}山^{さん}を^を巡^{めぐ}
 へ^へ何^{なに}も^もぞ^ぞ吾^わ今^{いま}身^み疲^{つか}れ^れ睡^{ねむ}き^きと^と堪^たへ^へ不^ふ可^かと^と此^{こゝ}處^{ところ}に^に一^{いっ}眠^{ねむ}り^り覺^さて^ては
 三^{さん}々^々山^{さん}成^{じやう}巡^{めぐ}り^りと^と云^い合^{ごう}細^{さい}と^と獨^{どく}言^{ごん}山^{さん}の^の四^し々^々々^々處^{ところ}の^の叢^{そう}小^{せう}鎖^さり^り
 一^{いっ}眠^{ねむ}り^り行^ゆ者^{しや}彼^かが^が耳^{みみ}根^ね小^{せう}り^りと^と此^{こゝ}体^{たい}を^を見^みる^ると^と扱^あつ^つと^と可^か笑^{わら}他^たが^が耳^{みみ}は^はよ
 王^{おう}北^{きた}下^{した}身^みを^を動^{うご}か^かす^す又^{また}啄^つ木^{ぼく}虫^{むし}と^と變^{かは}り^り喙^{すゐ}を^をな^なす^すと^と一^{いっ}翅^{てい}小^{せう}龍^{りゆう}き^きり^り八^{はつ}戒^{かい}
 一^{いっ}辰^{ちん}成^{じやう}照^{てう}と^と挖^く搯^{せん}的^{てき}刺^さ八^{はつ}戒^{かい}慌^{あわ}と^と起^た起^た妖^{よう}怪^{かい}あり^りと^とと^と乱^{らん}嚷^{ざう}な^なら^ら唇^{ちん}を^を
 撫^なり^り曰^い彼^か妖^{よう}怪^{かい}吾^わ成^{じやう}一^{いっ}槍^{しやう}突^つつ^つ小^{せう}不^ふ疼^{いた}む^むと^と呀^やと^とれ^れと^と四^し方^{ほう}を^を見^みれ^れと^と
 物^{もの}も^もな^なら^ら控^{くわう}頭^{とう}を^を拾^して^て空^{くう}を^を見^みれ^れ二^に個^{こゝろ}の^の啄^つ木^{ぼく}虫^{むし}半^{はん}空^{くう}小^{せう}龍^{りゆう}居^いり^り八^{はつ}戒^{かい}大^{だい}小^{せう}
 腹^{はら}を^を立^たて^て吾^わ那^な弼^{ひつ}馬^ば温^んの^の人^{ひと}小^{せう}欺^{あま}れ^れ山^{さん}を^を巡^{めぐ}り^りと^と悔^{くわい}気^きな^なら^ら小^{せう}汝^{なんぢ}又^{また}き^き
 つ^つ吾^わ眠^{ねむ}を^を妨^さる^ると^と安^{あん}ら^らぬ^ぬ吾^わ是^{こゝ}を^を慌^{あわ}ま^まり^り汝^{なんぢ}慥^{たう}小^{せう}我^{われ}嘴^{すい}を^を朽^く木^{ぼく}なり^り

とありし。啄く裡面なる虫を吃りし。とちりなり。吾今嘴を隠し。睡ふ
 窟し。とけふ。遂に小嘴を懐小押入。依然並業。最ふど。折れ。行者又飛下
 八戒。耳根を強く刺さる。おど。八戒再度おど。跳起。是く。守他
 が。窠あり。吾おど。おど。成。恐。如此。刺。能。今。八。腫。り。ま。う。と
 釘。鉋。を。と。り。ま。上。ま。ま。悟。空。も。ま。ま。蟪。蛄。虫。と。変。じ。八。戒。が。耳。う。ち。小
 住。四。五。里。斗。行。く。処。一。座。の。青。石。あ。る。成。り。ま。止。ま。石。小。對。し。禮
 を。な。し。獨。言。し。り。母。吾。今。此。青。石。成。師。又。小。准。飯。て。り。各。應。を。演。習
 せ。し。ま。ま。自。向。自。答。り。曰。吾。回。り。師。又。小。見。え。ま。ま。必。と。問。り。此。所。妖。怪
 有。や。と。吾。有。と。答。ん。又。此。山。の。名。と。問。り。吾。答。り。此。石。小。り。り。石。頭。山
 と。云。ん。又。何。の。門。と。問。む。此。釘。鉋。小。な。釘。鐵。葉。門。と。云。ん。又。洞。の。廣
 狭。を。問。む。三。層。なり。と。答。ん。が。又。門。上。の。釘。子。妻。女。有。と。問。む。吾。心。忙。し

く。不。紀。と。い。ふ。如。此。停。當。し。滞。な。く。答。か。師。又。ハ。り。も。ま。ま。り
 那。弼。馬。温。を。も。欺。く。窟。し。遂。小。回。り。路。小。回。り。ま。ま。り。行。者。先。達。て
 飛。り。て。本。相。を。頭。し。三。藏。小。見。え。八。戒。が。流。結。を。り。て。頭。め
 結。る。所。小。八。戒。程。か。回。来。る。三。藏。回。り。此。山。妖。怪。あり。や。八。戒。曰。若。于。有
 弟子。親。小。是。を。見。り。行。者。叱。り。曰。汝。前。小。最。少。く。腫。る。分。程。覺。す。し
 ろ。く。夢。寐。の。余。を。吐。出。し。や。八。戒。是。を。皮。く。腫。る。驚。か。り。身。成。矮。め
 師。兄。何。そ。ろ。ろ。成。い。ひ。ま。や。吾。さ。小。腫。る。な。り。よ。腫。る。も。師
 兄。奈。何。ど。是。成。知。し。行。者。曰。此。山。何。の。号。や。八。戒。答。り。曰。石。頭。山。是。なり
 行。者。叱。り。曰。汝。先。口。成。困。る。か。れ。吾。能。是。成。去。ま。り。山。中。洞。門。を。八。釘。を
 鐵。葉。門。と。い。ひ。洞。裡。の。廣。狭。を。問。む。三。層。なり。と。い。ふ。又。門。上。の。釘。子。妻。女
 有。と。問。む。吾。心。忙。し。不。紀。と。い。ふ。如。此。停。當。し。滞。な。く。答。か。り。の

弼馬温を欺くべし。正斯のてなごうや。八戒仰天々頭を叩て
罪を謝し。師兄八絨小天眼耳通かり。吾再び行くと絨小山を巡
べ。願く八罪を省し。又行者もこと眠。這分貨師命成はなごう却これ
を罵。王恣小睡。啄木虫小釘覚され。八戒大統をひひ。師を惑さ
と手。以ほの絨の。吾這五棍の棒を背小受用せよ。鉄棒を把と振
上る。八戒大の哭喪師。又小就と種々謝言し。れ。三藏悟浄言成はして
行者を省め再び八戒をす。山を巡らむ。八戒悦ひ釘釘をさけ。まきり
々。此度八絨行者跟行む。心も疑心生暗鬼な。ひ。八戒始小懲もて
草乃動。木葉の落るも行者も。虫鳥の啼も。悟浄が変ぜり。小
や。と。官怖懼と。道を急た。茲小這平頂山蓮花洞小兄弟
兩個の妖怪あり。兄を金角大王と。弟を銀角大王と。此日金角弟

乃銀角小向ひ。吾曾く人のりをば。東唐大唐の天子。三藏といふ僧
小命。西天小往。佛を拜し。經を求む。那唐僧。金蟬長老の臨
凡十世修行の好人なり。他が肉を吃者。八延壽長生か。ひ。他が
一行四人馬も。小五口。吾委く一幅の画図。小寫み。汝今日山我巡る路
の上方。和尚小遇む。画図を照驗し。似る者あふ。早く捉まされ
と一幅の画図を。これ銀角命を領し。三十個の小妖。汝引と。送
小山を巡ら。端かり。八戒と行逢。一個の小妖。銀角小告。曰。此和
尚那國中。乃猪八戒。小似く。銀角則ち画図を鏡の柄。小掛。兩
た。熱と。刀々。曰。白馬小騎。小三藏。毛臉。小孫。悟浄。色黒く。丈高。た。汝悟
浄。鬚長。大耳。乃猪。八戒。と。記され。扱。渠猪。八戒。小窮。きり。引。捉
よ。と。呼。れ。八戒。大。小。孩。た。急。小。逃。ア。と。と。銀角。忽。と。刀。を。舉。と。追。く

八戒も是非かゝ釘鉈をとり引返し。二十余合闘ひしに勝負
 成らざる処小三十個の小怪一存おちるゆゑ八戒遂小敵いごと
 逸足出々逃とせしを忽ち藤羅巾足を絆れ地上小倒まゝ小妖
 折るるかり遂小擒ゆ々蓮花羽へと引行る

油漬



繪本西遊記二編卷之一畢

東京 牛久保町
 本 徳本野
 京 池田屋吉

